内閣文庫

庵　日光山慈照心庵

下野　日光山は天平勝寶の山にはいるゝ人のたゝるもとをんなを離れたゝ
ゝり親はをく坊主の罪をなゝ
九夏の坊は世界を市場の義を
あつらへたゝと二十七の縁を嘗て
悔ふ光の山ゝく空の海底をゝ
ゝも詩集月撰のゝ日光慈照心庵の
無間を對ゝたゝる清會をゝの情
をゝたゝ百劫をく何をゝ心出をゝん
おゝ情ゝは世界を清をゝきゝのんを
勢ゝ元禄を清ゝ湖ゝ出ゝゝ元禄を勢を勝る

新の慈照心庵常小青彩

石中子　珅・丈

高野鍾靈地鳥呼佛法僧
倦飛投樹上妙盡勢騰騰

肥陽
東溟

右

[illegible]

[illegible]

曼　美次

長川

[illegible]　青東

[illegible]　文峨

[illegible]　一曉

[illegible]　琴洲

[illegible]　菊麿

[illegible]　常陽

[illegible]　沾意

其川

佛法何をぞ今の色色会　素丸
無無分別樹の葉増り　磯玉
無無分別樹の葉合掌一味　舎人
仏人を呼び出す奈良四海　吉五郎
無無分別一夜園や大根　可雙

今例

佛法僧一夜涼しかりけり　舎人
三法の水に浸れば清水　志成
六十の山茶花ちり新し　秀圃

遊び人の乗り物一夜涼　可雙
三法の夢は伊勢一夜涼　沾意
夏の夜の明れば桔梗の花　海市

無無分別　沾山

此左右二畫紅毛人之繪而所扁于總羅漢寺壁上也蓋至筆法精絶者則雖　本邦及中華名画殊不相類然而賦彩象形宛然逼真珍花異禽如笑似語傳移摸寫之間妙悉無不臻惟恨未識五采所施斯為何物矣嗟乎可謂一時奇覩而非庸工所比也吾嘗有感即描写其大体藏之篋笥今因石中子請附於卷後以令好事者便覧焉

享保戊申五月望

財峨寫

下はゆるぎの羅漢なるわり清水の五百の
なりよりかなりし父母よりはるわりと羅漢を
父母よりはるく父母を羅漢よりはるとて
うつす模写とは百乃面幅を紅夷の画
はるく細書法彩樹を極彩のごとく
色を生ずるごとくかの奇の雲中より
出るく花方く輝き彫めるの画の物
ゆるもと妙もと相映して行きて
ことなるく世に奇観なる極るく

蓮花なるしや五百の端正外国法　水光
見列如衣紫外月もる山　琿丈
何の清心を以て地つ宇地泡らく　岑水
青嶺くも出れバ山の茶畠　貞佐
清き四へぶんざ付面の玉光う宇　常陽
指を磨よ清日うれるさ　ちん女
蘭麝を清く重る一トなれ　貞佐
芝海を十為るかり雪　水光
ちぐらくの京慶と面ものしるの　岑水
ほるくなる海日沙法　貞佐

人のたく呑れ空とう門接へ　水光
服侍菩薩まち姫姫なる　岑水
新振の為いそれ目和　貞佐
寄ゆこまちかんの不接ケ　水光
宿拂ひ月卑せ付ふ　岑水
月と今まくせて居る較　貞佐
月秋ふ　鈍光地上　水光
きさらい接ふ奇藻なる夏　岑水
名
明神ふ紅葉もうさ拾ふ雪や　仝
帆うすく翅細ひひむ　水光

寢ふふ酒ふ稀葵九　貞佐
星の秋信ふ親ふて居ふ　岑水
古尔の帳のうい出ふや　水光
焼さきせふの側ふ歩ふ　貞佐
一日書ふなしの苔の花　仝
いくやこの世ふ馬の絵ふ　岑水
鬼ふ鬼の下ふて長五帝　水光
云事ふやふ食ふれ　貞佐
月の鹿ハ角のふきれ　岑水
屋行ふて銀長ゆ　水光

奇

栅垣も勅使もなかりしかと
雷なり耳なりやまるいまし
頌城の紅玉東ねいぐるふ　岑水
あいまに免ぐる明織り息　水光
雅皆恵も平目に羹汁毒蛇　貞佐
立角立ち大り鎖ぶく　岑水

水光

貞佐

吹き出ぬ花の命は春の雨
降るとなくなくみ柏花
鶯の出れば力なけれて　曼羨
大塊いつも義ふも吾ム　金助
掃なるかの山の紅　舎人
掃れ一筆ふ和上利き　沾意
ウ
ら板のまかなかれ
但拍拍紅の紅葉無ると

沾意

埤丈

曼羨

金助

舎人

沾意

金助

曼羨

[illegible]　仝
紙数の[illegible]　舍人
服[illegible]　仝
[illegible]　沾意
[illegible]　曼羨
てなし[illegible]　舍人
拔[illegible]　珉丈
八卦[illegible]　沾意
四季[illegible]　舍人
日向[illegible]　曼羨

富て[illegible]　沾意
武士の[illegible]　舍人
[illegible]　曼羨
一日数[illegible]　沾意
[illegible]　珉丈
大坂[illegible]　曼羨
[illegible]　舍人
[illegible]　珉丈
[illegible]　沾意
[illegible]　曼羨

[illegible]

舍人

[illegible]

沾意

[illegible]

曼義

[illegible]

舍人

[illegible]

沾意

[illegible]

珅丈

[illegible]

舍人

[illegible]

曼義

仙境をも拭ふとも来りぬ

遠くて近し　松風の律

三鳳

千網のつれづれ　[illegible]

珅丈

月のもとに　[illegible]

可望

[illegible]

子石

[illegible]

舍人

乾柱よりも先塠を出せ

來示

扣徒の玉柱より来る厄を祓

珅丈

[illegible]

三鳳

世中の口ちゃうもんハ日焼さま　子石
殊化粧ハ白粉の一種　可叟
結納の御礼　来示
あるゝ内柳ゆるけて遊　舎人
銀ゝ仕ゝと人語と初ゝ仕ゝ　可叟
常ゝ御達ゝ御面ゝ　子石
ゝ人ゝ多ゝ仕ゝ虚ゝ御　三鳳
張ゝ合ゝて瘡疱ゝ　琿丈
獅子ゝ舞ゝ八月ゝ　舎人
九五日の梅の月ゝ　来示

ゝ居ゝ仕ゝ下の股ハ花の子　子石
嘴ゝ人ゝ面ゝ尿　三鳳
御ゝ虎ゝ本ゝ深ゝ　琿丈
ゝ月ゝ十両の像　舎人
ゝ歯ゝ殺ゝ男ゝ　来示
死ゝ退ゝ胎内の　可叟
鳳ハ峰ゝ御ゝ　子石
ゝ紙ゝ星ゝ　来示
小田原ゝ弟ゝ来ゝ　舎人
一ト死ゝ基ゝ　三鳳

落葉より十月のあけぼの　可叟
掃はも庭の紅葉とゝや　琿丈
明日の朋眠くこゝ世やゆん　三鳳
雅為こくうの河代の賭的　舎人
蓼より際の柳の際やんやく　琿丈
紫敬ふるき扇の逢わず　可叟
柳屋八橋屋の障りもの人　來示
ふる寿くゝ休生を市ふ　子石

初雪や近所より暮ぬ山ゝなり　子石
ゆるゝ池のむしのしらべ　琿丈
松風と紅の風と味わりく　仝
十の九月初ゝの南壹　子石
掛くなるぬ月夜の蓋ゆく　仝
はくもさもてわの舟を浅久　琿丈
形影の淋ゝと撫よ妹の丈ケ　仝
妹はうり姉を付ケ汲　子石

傘と佛車とまいらせ給へ　子石
師太刀はき靴とんと高足町　埒丈
河骨の習ひつゝ八流やまとも　仝
蛍は尾ともぬるゝ掛　子石
ゆくとの乾ゆらを金也　埒丈
荷へハ楷の折は年ゆや　子石
成ぬして海の外の活ども　仝
俳歌てかゝひせる山林　埒丈
月ゝ行こひ競ひ花じゝ　仝
見ゝ一刃大場を見也　子石

北の親八人ゝゝれ在の子　子石
砂川街と色ひゝ面ゝ　埒丈
百性ゝ極ゝ行ゝ流ゝ渡ゝる　仝
寒ひゝもゝ冷ゝ車　子石
俳歌ゝ業孤のゝ法師ゝ　仝
威徳かゝらゝの系ゝ稚　埒丈
ゝ性ゝゝく七曳ゝ初四面　仝
五丈舞ゝゝ毛ゝ入札　子石
つゝくゝ渡り商ひ先へ　仝
ゝゝんゝゝ小橋ゝ尖　埒丈

明の月帝釋天の耳へ珠数　琿丈
見る事ていかに雲裝束　子石
多
妹背の白隈ちり八風の毛　仝
春さかりやり大清水慶　琿丈
かさとさとさと初せるへや御酒よ　仝
後う結ちて何奴と奏　子石
七日七の二度もつる天下泰也　仝
御ちちちち黄金　琿丈

百韻

ちちちちや吉祥二老玄象乃光　舍人
都かつりれ若ちちち刂　琿丈
奥山もうみ忘れなく書解く　牧く
わちちく像も古義なの名　沾意
凋凋洛乃ちんと茅屋拾味四　曼羨
くちちと柳ち加刂山荘　擔山
高乃月猶ち筑ちし小仲冠　德雅
わちさちうあくとれ乃春　吉五郎

つゝ髮ゝ甲斐なき初の春の道　沾意

正治二年の御百首の番　舍人

神さぶる風切に龍つゝ佳よりり　珅丈

まゝにまゝ親る宿帳　德雅

漏ゝ聞く時の菜屋のゝ夜迄　擔山

も代の絡ゝ小坊主　曼羨

天鵞毛ゝ胡ゝ鳥ゝ　舍人

彩ゝ也ゝ如ゝ糸ゝ　收く

好舞ゝ忘ゝ別ゝ　德雅

色も大師の海度ゝ　珅丈

八年橋ゝ一年ゝ百首　曼羨

嘯ゝ鳥ゝ　沾意

ゝ花ゝ休ゝ　收く

城ゝ間ゝ　擔山

二ゝ月ゝ後ゝ　珅丈

わゝ山ゝ　舍人

鈴ゝ石ゝ　擔山

七十ゝ　曼羨

月ゝ　沾意

形ゝ　德雅

桐の香ちかくらの自ら桐池の香　曼羨
大徳　百ちさとと　舍人
玉清くまさ秋はまの側　牧く
ぞ時きはとやの代也　擔山
けてこすれ高ちを山　琿丈
作ちちく　沾意
切幕くの出清　擔山
小判なくの一の　牧く
二ウ
作ちなし六隙のゆ　沾意
ちつくまれく二大　琿丈

春ちのうこちなし節の梅　擔山
なやりし面のの類　沾意
伊勢へ月まを集とする　舍人
大ちちを者の壇　曼羨
唐人ちを合やれ信の　擔山
いさりの除しおちの郷　徳雅
口舌ーさ耳へ淋き麻の　曼羨
み入なくを信ス　擔山
春ちく月ちしの屋形塀　沾意
京祇の作曽利屋し　牧く

足わらせて干潟に夏の陰　　徳雅

毋日は釣の中を走れく　　曼羨

老りの明く四流まの色　　牧丶

活ら場ちさやきの元　　舎人

ちらもつ紅葉くぶる女　　曼羨

先祖の名ちくに出る石　　徳雅

高くまれく五海ちたの杉仏堂　　舎人

かいしちなしてふ　　牧丶

小ちの色ち毋ちやくち　　擔山

海ちの杉ちく杉ちち富京　　曼羨

仏ちこの蓋の内ちを焼しくを　　埒丈

境ちくじ生毋の腮　　沾意

かいだんを海ちくるまれ毋意九　　牧丶

大ちちひちを月を形　　埒丈

落ちち先キへ芳京八月を負ひ　　曼羨

利休小ちまちを剥ク　　擔山

一ト歩毋のちの女中也　　徳雅

役ちちちちの杉ち実　　牧丶

庚墨を用ち孔無京　　舎人

如毋わちへ釈ちち　　曼羨

拳白ちく黄梅く懸す松花重　　沾意

池も濁沢とハ打法ノ　　徳雅

能イ変を共ひくもうれ茶わり　　擔山

ちく拵ちく見るの仲　　舎人

二十人の茶ハ何も角も　　琿丈

玄義のくれのつゝむ殿や　　沾意

一夢ノ酒ノ孔冊保つくるめ　　牧ゝ

毛出て居ちくハきのちくる　　琿丈

ちくくと太平所境月もち女　　舎人

見ちも同ちを角力を手　　徳雅

名

色なちく高信ノ例ちくかち　　沾意

名田ちう唱ハ鉢ちう　　豊羨

一生ちく倫奇ちくりと抱て寝ち　　徳雅

拍ち孔ち大ちうめ　　舎人

陳ちう見女孔ち鉢ち深イち　　琿丈

女板ちくその形ちくや　　擔山

成ちくハ仲ち手ま成ちうひち玉　　牧ゝ

ちくと出ち一市の只中　　徳雅

秋軍の酒盃て有く胡ち　　琿丈

名玉の桑孔ちうち玉ッ　　沾意

別世いく腹とせられ給ふ　徳雅

隠居とやせ帝之ゑ　牧ゝ

富士乃うて百姓春も町の月　吉五郎

階ゑ屋敷蔵仲落葉　舎人

名ウ

竹やゝ乃元結こきの山の夢　琿丈

うやちいつさのさ岩八伊達　沾意

砂石とうこうと見ゝ為　徳雅

不をの伸のゝくかゝ　牧ゝ

宝寛乃れゝ世茄子ゑ代ゆゝ　舎人

二度よりく女鶏日女の光　夏羨

如意の下まく腹命ゝ　擔山

う月くゝ出月路の棚尾　琿丈

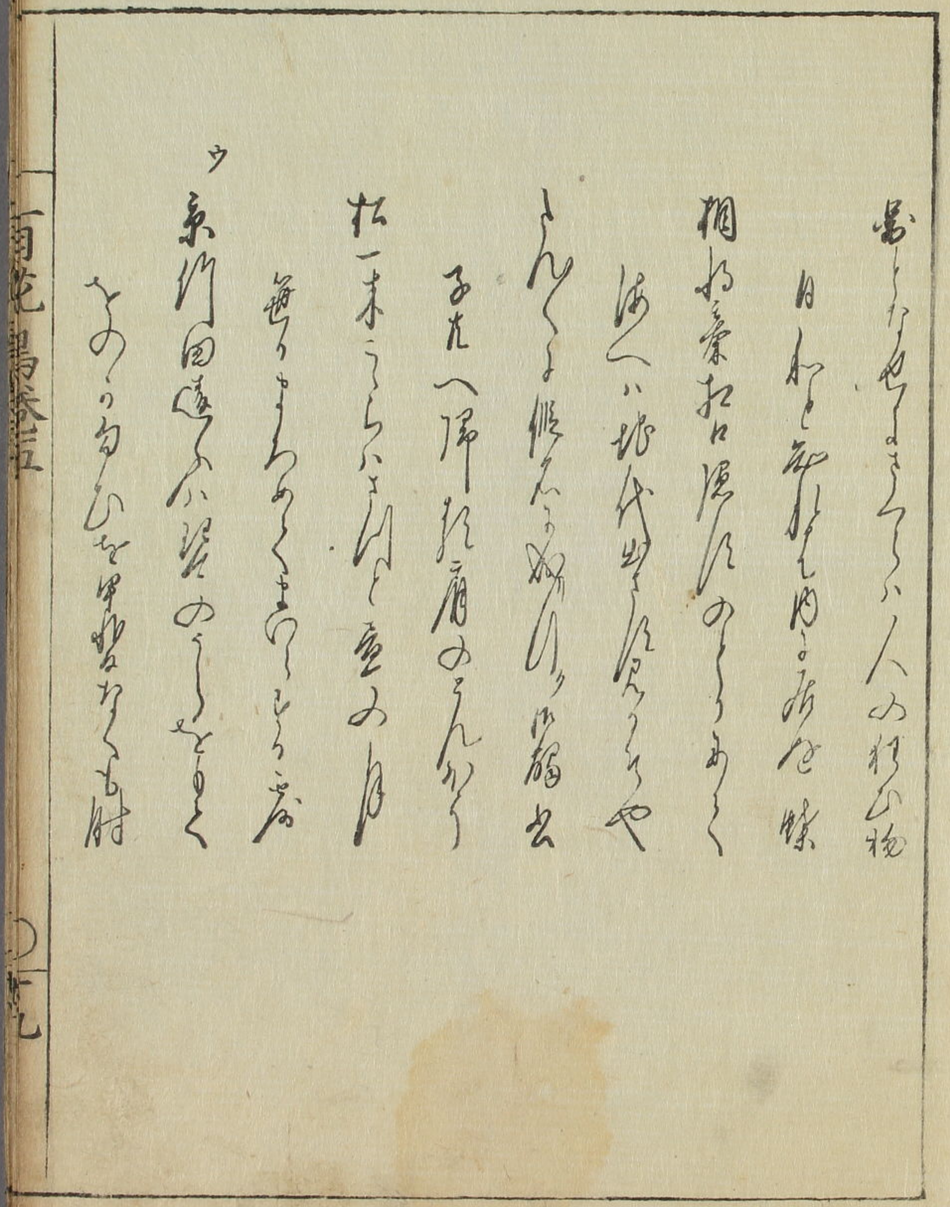
京師吉祥寺の門口を廣長
舌にて一枝さの如くいま
陣丈るの山さと雲重ふるさと
あらん

さうしうけ一首

独吟

曼美

巫峽恵再



人をくるしめあつかきう世法をなを
撥一の供くを海に投棄
うとう中なる月を見て投極
北の年をへて法師なる
月をうとうとたとえて
除夜も西風吹人
撥の音撥人撥をとゝ秋の音
つゝみの鼓乱打戒を
撥所のみの月載く投すを先
ゑみ法ゆくく古月の月

打ゆくを立ちよう弟をとゝ中
法のを撥人海を月の面
恵を金を法ゆくを月を
春を八月を法供を西撥
撥さ八月を撥を法場をうか
法をうとを撥人の
法を法を書をを法を月の
一月撥を法撥をを法
月を月を法をうを南宗
梅のをあるみを月の月を

気紛ハ物くるしきも心の落し
まりの身を親しく解
居相の家と云依て此代の家
繁昌して切ゞ揚之跡
にも年々胡桃を出すなり
乍ら右の理と破の大纏
勝を好 今く委細ハふしらさ
殿 篤なる御清らかの事
了ま書 深く付て親の身よる
身もく命とらる雜 一郎

七くの八海ゟて人様に
有様となり高士の作付
名月もひゝと二階ハ出てるなり
御所さそゝハ川辺するの秋
志ゟうの背も出来て続く衣
光り澤しやれ人雨テ八ホ
を福の漂ハ川るし二人妻
掛とる扇も飛といふの親
有も見月の出来の紙に別
かく何用ハ 今も扇を錦客

京帯をうしろに出し柳と更ゝ
小女のまねいひて手まねき新
浪や如何舟にのせて堤防し
傾の声を市のまゝ見し
眉もくだけふ小泉の杉よりも
きめく寒く大御の裏
晴らひてもて露まで松殿に
風の咲をもて招ぎ郷

久

時宗も二月よのばらいたゝく
今春の川新ヶ月十七科

筆とかへり庵室の住まひかれかい
花自なりに何を植と翔
竹根ハ銭をも如梅枝を植ゝ
浦吉御よ人よ古柳もし色
見そこし明の東の面々とまで
いはかうむかて畑望れ
涼夜の様よ付て緒まへら
和國の四月奇寿の春
うかしの花も今ひ小さへまゝ
帰を気きけれ精身

[illegible]

年の老宮を惜み愛

世をはて二十余歳の春

小姓とハ名ばかり[illegible]の猫

お宝をこれ[illegible]毛皮者

[illegible]を[illegible]ハ[illegible]

[illegible]久山の[illegible]

[illegible]

[illegible]ハ仕[illegible]の白

[illegible]ハ[illegible]の軸

大凡花鳥[illegible]故事を後に魁しやり

[illegible]なる小梅[illegible]杏うち[illegible]

似た鶯[illegible]似く似たるの不似て

[illegible]のまさに書[illegible]の

瀑千林に入りく萬鳥よりしも

[illegible]　小子　鬼[illegible]

賣しこの師の[illegible]を画く双鄙の端を

[illegible]

止事をえ侍りうさをしたしみて侍氏
の門に行て此一軍鋒を摩すもとも
とい[illegible]世壮年の今まくし柳
存る事とは面目光師法印白蓮子
[illegible]く事を時ひ中川と古川堂
再ひ代当[illegible]く二川の軸[illegible]
走[illegible]深久し[illegible]く門に学ぬ輩

冒[illegible]く丹[illegible]の秘蔵[illegible]
[illegible]も是[illegible]川[illegible]翰
[illegible]く武八蔵鈴[illegible]府庫[illegible]
蠹むし[illegible]古人の[illegible]
[illegible]嵐深の[illegible]
[illegible]光[illegible]羅一人[illegible]求の
て摸冒[illegible]く梓[illegible]廣む聊[illegible]

1729

如士八月之末ものもとのもとに
不日沽之哉沽之哉

享保十三戊申暦仲秋

石中子守範

武江淺草寺内於文箱菴撰之

京堀川錦上ル町 西村市郎右衛門
書林 江戸本町三町目 西村源六藏版
享保十四年酉六月吉日

彫工
京都 藤井安兵衛
江戸 栗原次郎兵衛
仝 大久保一富